

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第3回和泉市総合教育会議
開催日時	令和7年8月28日（木）午後2時00分から午後3時30分まで
開催場所	市役所3階 3A・3B会議室
出席者	〔構成員〕 辻市長、大槻教育長、深堀教育長職務代理者、酉家教育委員、中西教育委員、小谷教育委員、木村教育委員 〔事務局〕 （教育委員会） 辻教育次長兼生涯学習部長、東教育・こども部長、上田教育指導監、永井学校教育室長、仲谷児童生徒支援担当課長、辻川児童生徒支援担当主幹、鍛冶教育・こども部次長兼学校園管理室長、奥教育総務課長、大西教育総務課長補佐兼総務係長、西川教育総務課主事 （市長部局） 前田市長公室長、門林政策企画室長、福田企画経営担当課長、中企画経営担当総括主査
会議の議題	（1）コミュニティ・スクールについて
会議の要旨	・和泉市版コミュニティ・スクールガイドといずみ未来サポーターズブックについて説明し、意見交換を行った。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要事項	会議公開・傍聴者1名

1. 辻市長から、開会の挨拶

2. 事務局（市長部局）から「第2回総合教育会議の振り返り」について説明

3. 事務局（教育委員会）から「和泉市版コミュニティ・スクールガイド」について説明

4. 意見交換

【大槻教育長】

- ・具体例を示すことで型にはまってしまわないよう、和泉市らしい取り組みをすることで型を破っていききたい。
- ・専門家であるコミュニティ・スクールマイスターにも意見を聞きながら進めていききたい。

【深堀職務代理者】

- ・ガイドブックを作る案はコミュニティ・スクールのイメージがわきにくい人にとって活用しやすく、良い取り組み。
- ・バラエティに富んだ事例を出すことで、どのような形でも活用できるイメージをもってもらうのは良いこと。
- ・地域や事業者が授業支援にどこまで関わっていいのか分からないといった課題や、学校が従来すべきことを任せているように見られるのではないかと懸念に対して、よりどころになる記述があってもいい。

【教育委員会事務局】

- ・学校が授業支援をしてもらうイメージができるような好事例をガイドブックに記載していきたい。

【西家委員】

- ・今の子どもたちの教育に必要なのは、学校や家庭で教えることができない社会性であり、コミュニティ・スクールを用いて教えていきたい。
- ・今まで学校がやってきた「数値や偏差値」重視の失敗を許さないような教育ではなく、探究して課題に取り組み、行動して議論していくことがコミュニティ・スクールらしい授業であることを強調していくことで、保護者に共感してもらいやすく、理解してもらいやすくなるのではないかと。
- ・失敗してもいい、目標や成果が必ずしもなくていい、という教育を、社会の皆さんと取り組んでいければいい。
- ・コミュニティ・スクールがリードするというよりも、地域に自然発生し、形が出来上がっていくというのが理想。

【教育委員会事務局】

- ・本市の授業改善のテーマも、探究や、議論といった、協働的な学びに向かっており、コミュニティ・スクールとうまく組み合わせながら、地域と同じ方向を向いて子どもたちを育てていくことが大事。
- ・コミュニティ・スクールガイドで市民の方々にも発信し、うまく広げていきたい。

【中西委員】

- ・和泉市の事例も入れた事例集を作してほしい。
- ・コミュニティ・スクールを生かした取り組みは議論する範囲が広いので、整理は難しい。

・地域教育協議会と学校運営協議会がどう違うのかをはっきりさせたうえで、取組みの課題や事例を中心に整理してはどうか。

【教育委員会事務局】

・これまでの制度との違いについて事務局内で議論し、委員のメンバーについて、エリアや地域にとらわれず、学校が求めるテーマに沿った委員を外部から招聘し、目的が実現されることをめざすこととした。

・これまでの学校協議員制度は地域の方が学校に対して意見を述べる場であったが、和泉市版コミュニティ・スクールは学校の願いに対し、地域だけでなく、そのテーマに精通した専門家を呼んで議論していく形にしたいと考えている。

【中西委員】

・学校協議員制度から、具体的にどういった変化があったのか検証する必要がある。

・コミュニティ・スクールの運営主体は学校運営協議会。

・最低限すべきなのは、学校経営の基本方針をしっかり承認し、それに基づいた学校の評価をすることであり、それを基本として、地域との協働の課題に対してどのような取組みをするのか方向性を出し、どのような委員構成がいいのか考えないといけないのではないかと考えている。

【教育委員会事務局】

・学校運営協議会を導入し、具体的にどのような変化があったかという点、実質、大きな変化はまだない。

・進むべき方向性が浸透していない部分や発信しきれていない部分もある。

・総合教育会議などでコミュニティ・スクールガイドの素案を見ていただき、意見をいただきながら、分かりやすいコミュニティ・スクールガイドにしたい。

・ガイドラインを作るだけでなく、実践事例を継続的に共有していくようにもしたい。

【小谷委員】

・文部科学省が示しているガイドに和泉市の要素を加えるといいガイドになるはず。

・和泉市がめざすものがガイドには必要であり、それが教育大綱ではないか。

・集合研修だけではなく、意見交換などの対話、棚卸（ダイアログ）の時間が必要。

・地域の人が集まって好事例を出し合い、互いに学びあう場があればいい。

・役割を持たせて取り組むのがコミュニティ・スクールであり、既存の組織の役割を奪って行う必要はない。

・テーマ設定は教育大綱にあるはずなので、コミュニティ・スクールをもって教育大綱の理念を実現していけるようになればいい。

【教育委員会事務局】

・和泉市らしさを特色として出したものにしていきたい。

・和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例や和泉市教育大綱の趣旨は、エッセンスとして入れていきたい。

・今年度は、教職員がしっかりコミュニティ・スクールを理解したうえでコミュニティ・スクールガイドを作り、次年度、委員や地域の方々を対象とした研修やお互いのよさを知る交流の場が持てるようにと考えている。

【小谷委員】

・トップダウンにならないように、地域の方々が意見を出し合えるような取組みも並行して行ってほしい。

【木村教育委員】

・情報共有や役割分担ができていないと、イメージが湧いてこない。

- ・形だけにとらわれてしまい、打ち合わせのためだけの協議会とならないように、情報共有やどのように進めていきたいかなどを意見交換することが大事。
- ・事業者とのマッチングは魅力的であり、中学生の職場体験などにも活用できるのではないかな。
- ・地域の生涯学習とも関連付けて、事業者が地域貢献としてワークショップなどを提供すればより効果的ではないかな。
- ・学校と地域を分けて考えるのではなく、連携して和泉市全体として取り組むことで、様々な課題を包括的に解決できるのではないかな。
- ・共働きの家庭が増えて役員のなり手が少ない中で、地域のつながりを強化するために、小学生や中学生にも参加してもらうことで、世代間のつながりができるのではないかな。
- ・専門家の中に保護者が入ると意見しにくいといった話も聞くので、会話がしやすいような配慮をしてもらえるとよい。

【教育委員会事務局】

- ・行事を実施するだけの協議会であってはならないと思っている。
- ・ただ単に人員として呼ばれる場にではなく、目的を達成するためにいろんな意見を言い合える場になりたい。
- ・地域の方が専門委員の前でも意見を言いやすいようにコーディネートするのが管理職の役割であると思うので、研修や、コミュニティ・スクールガイドの中で伝えていきたい。

【辻市長】

- ・和泉市では、生きる力を育む教育、自分の夢を実現する力を育む教育、社会貢献する力を育む教育の三つの教育を充実させることで、立派なこどもを育てていこうとしている。
- ・学校教育だけではなく、地域教育や家庭教育が非常に重要で、これらをカバーし、良いものにしていくのがコミュニティ・スクールの役割。
- ・地域の実情や課題を理解している地域に根差した方々が、その課題に基づいたテーマを決め、そのテーマにあった専門家の意見を聞ける委員構成になるとのことだが、人選の方法やコーディネートの方法について詳しく教えてほしい。

【教育委員会事務局】

- ・地域に住んでいる方には地域の専門家として、テーマに沿った知見を有する方にはその専門家として参加していただき、それぞれの意見を出してもらうことで偏った方向性にならないようにマネジメントしていく。
- ・マネジメントするのは校長や教頭であり、学校の切実な思いを打ち出していく必要がある。
- ・学校の管理職が当事者意識をもち考えを出していくことが大事であることを、コミュニティ・スクールマイスターの力を借りながら伝えていきたい。

【辻市長】

- ・コーディネートする学校管理職に、十分にコミュニティ・スクールを落とし込んでほしい。
- ・成功事例を作っていくことが近道と思うので、横展開できるように考えていってほしい。

【深堀職務代理者】

- ・コミュニティ・スクールの存在意義は、学校の想いを示して議論すること。
- ・解決策や具体例は後からついてくるものであり、それを目的とすると肝心なプロセスが消えてしまう。
- ・結果はすぐ出なくてもいいので、課題を解決する意見交換を強調してほしい。

【大槻教育長】

- ・学校ごとに課題が異なるので、一律の支援では追い付かない。
- ・学校の困りごとを整理することが、コミュニティ・スクールの第一歩。

【酉家委員】

- ・地元の「おやじの会」というスポーツや清掃などの活動をされている有志の会があり、１０年以上も続いている。
- ・無理なく参加できる人が参加し、また、こどもにとって良い活動であるからこそ継続しているのだと思う。
- ・地域や親とこどもとの関わりを学校がそっと支援したり、やる気のあるところに人員やお金を支援していくことが良いのではないかな。

【小谷委員】

- ・市のあり方など大きい方向性をガイドに示し、地域愛や郷土愛を根付かせることで、引き続き和泉市に住みたいと思えるようにすることも大切。

５．事務局（教育委員会）から「いずみ未来サポーターズブック」について説明

６．意見交換

【大槻教育長】

- ・直接的に民間事業者がこどもたちに関わってもらうことも大事。
- ・こどもの授業参観の際に特別な休暇を認めてくれるような会社が出てくるなど、職場体験への協力だけではなく、サポーターズの範囲を広くとらえていきたい。

【深堀職務代理者】

- ・仕組みがうまく機能すればいいがイメージができない。
- ・事業者をどう募集し、どう活用していくか教えてほしい。

【教育委員会事務局】

- ・事業者を集める際には、やみくもに事業者に声を掛けても無駄になるため、学校のニーズをとらえ、商工会議所等に協力を求めている。
- ・どう使っていくかは具体的にサポーターズブックに記載するとともに、連絡先を記載し、直接学校と事業者が関われるようにしたい。

【深堀職務代理者】

- ・マンパワーが必要な話なので、まずは事業者と話しをすることでヒントが出てくるかもしれない。

【酉家委員】

- ・事業者一覧のようなものをイメージしていたが、SNSで実施したことを発信できるようなチャンネルでいいのではないかな。
- ・実際にお手伝いしたくても契約的になってしまうと参加しにくくなるので、緩やかなものにするのがいいのではないかな。

【教育委員会事務局】

- ・学校として協力してくれる事業者が分からず、同じ事業者とのやりとりばかりになることから、入口としてのリストは必要。
- ・出口としてのチャンネルは検討したい。

【中西委員】

- ・非常に面白い発想なので、大きく育ててほしい。
- ・1年かけて委託して調査をするのでは開始までに期間が長いので、できるところからスタートすべきではないか。
- ・NPOや子ども食堂など幅広くつながるものにしてほしい。

【教育委員会事務局】

- ・入口の発想が和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例に基づいていたことから民間企業を想定していたが、協力したいと言ってくれる様々な団体とのつながりも入れていきたい。
- ・従来の一覧のようなものであれば、発想が限られてしまうのではないかという思いがあり、考えた発想をうまくアウトプットできるように、広告宣伝等にノウハウのある民間事業者に委託することで、活用されるブックを作っていきたいと思っている。
- ・ブック完成までに何もしないわけではなく、できることは取り組んでいきたい。

【小谷委員】

- ・どのようにしてマッチングするかがポイント。
- ・毎年募集し、リストを更新していけるような制度設計が必要。
- ・パイロット的な取組みは令和8年度から実施してもいいのではないか。
- ・個人スキルの登録もあるかもしれない。
- ・活動エリアの記載があってもいい。

【教育委員会事務局】

- ・風化させてはいけないと思っているので、定期的に事務局にて更新していきたい。
- ・実際の運用は令和9年度からだが、それに向けて制度設計し、募集していきたい。
- ・協力できる個人を登録する事例はあるが、スキルを登録することも面白いと感じた。
- ・事業者側や支援する側のニーズも見していきたい。

【木村委員】

- ・多くの人がブックを活用できるようにするのがいい。
- ・職場体験においてどのような体験ができるか情報を多くの人が分かるようにしたほうが風通しがいいのではないか。
- ・会社名が書かれていてもどのような会社か分からないこともあるので、一目で理解しやすいものであってほしい。
- ・学校だけではなく、取組みが市民に伝わるように、オープンになればいい。

【教育委員会事務局】

- ・より広く知ってもらうことが目的だと感じているので、情報発信の工夫をしていきたい。
- ・学校の「やりたい」を支援していきたい。

【辻市長】

- ・協力してもらおうと思うと、和泉市や和泉市教育委員会の本気度が問われる。
- ・テクノステージとは信頼関係ができており、事業者の方とコミュニケーションをとるところから始めた成果だと思っている
- ・熱い思いをしっかりと伝えていけるようにしていったほしい。
- ・私や教育長も協力させてもらう。
- ・民間事業者だけではなく、NPOや作業所など、多くの人に協力してもらえればいい。

【深堀職務代理者】

- ・Webを活用し、世間の人も取組みが見れるような、発信できる仕組みも検討してください。

【中西委員】

- ・困っている子どもを助けることが大事だと思っており、ヤングケアラー支援についてもいい考えがあれば教えてほしい。

【小谷委員】

- ・コミュニティ・スクールにも市長が来ていただいて声掛けしてもらえるといいのではないかな。

【事務局（市長部局）】

○以上をもって、令和7年度第3回和泉市総合教育会議を終了する。

< 終了 >